

I 理事長挨拶

地方独立行政法人岩手県工業技術センター
理事長 阿部 健



「がんばろう!岩手」
～技術で復興をお手伝いします～

企業の皆様には、日頃から岩手県工業技術センターをご利用頂きありがとうございます。
当センターでは、「創るよろこび・地域貢献」、そして「企業の皆様と一緒に」を基本姿勢として、皆様から使いやすいセンターを目指すとともに、各種研究と商品化に向けた取組みを通じて、これまで地域企業の発展と県内産業の振興に努めて参りました。

今年度におきましても、その基本姿勢のもと、震災復興支援を引き続き最重要課題に位置づけ、被災企業の具体的な課題解決に向けて積極的に取り組むとともに、県の産業施策と連動した中で、研究から事業化までの一貫した企業支援により、その成果の早期事業化と研究開発型企業としての強化に向け、皆様方と一緒に取り組んで参る考えです。

東日本大震災津波から2年数ヶ月が経ちました。今なお被災地域は復興に向けて懸命に動いています。震災からの復興は、ある意味、新しい地域づくりであり、地域に新しい付加価値をどうつくるのかが問われていると思います。当センターでは、センター内に設けた「復興支援プロジェクトチーム」を中心に、企業訪問や企業との共同研究などを通じて、被災地企業の皆様の取組みを支援して参ります。技術的な課題から商品開発まで広範囲にわたって相談に応じておりますので、どうぞご利用頂ければと思います。

また、県内では、ものづくりの分野や環境・エネルギー、さらには地域資源型産業の分野など活発に動き出しています。当センターとしても、企業の皆様との接点、現場を大事にしながら、共同研究や共同開発にも取り組み、新しい付加価値の創造やマーケットの拡大、産業人材の育成など、より事業化に向けたスタンスで取り組んで参りたいと考えております。

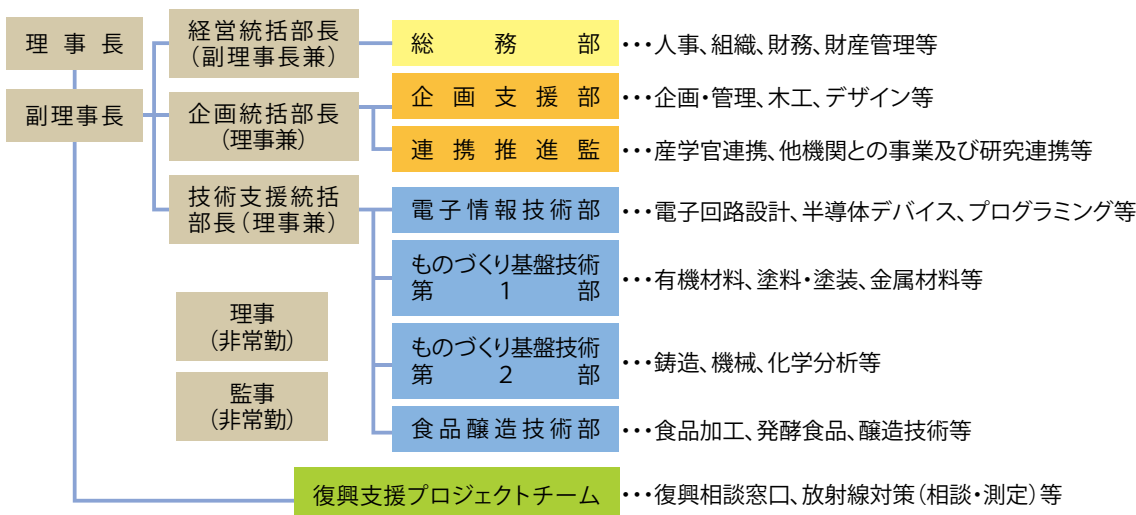
今後とも、県民の皆様から信頼され必要とされるセンターを目指して、より一層の技術・研究資源の充実を図って参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

技術情報

Iwate Industrial Research Center 岩手県工業技術センター

II 平成25年度組織の紹介

■ 組織図



復興相談専用ダイヤル:019-635-1119
通常のご相談は:019-635-1115

【目次】

I 理事長挨拶	… 1	V 新規導入設備	… 6
II 平成25年度組織の紹介	… 1	VI 職員の紹介、定期人事異動情報	… 8
III 事業概要	… 2	VII 関係機関の紹介	… 8
IV 平成24年度の主な活動実績	… 2		

Ⅲ 事業概要

事業の種類		内容	費用
技術相談		新技術の紹介、製品・原材料の分析や技術開発・製品開発など、技術に関する様々な相談に応じます。	無料
企業訪問		企業等の現場に直接職員が伺い、技術的課題の調査・解決に向けた助言を行います。	
依頼・貸出	試験・加工	各種分析・計測を行い、その結果を成績書として発行します。 加工(デザイン加工含む)を行い、加工品をお渡します。	有料
	機器・施設貸出	所有機器、試験室や会議室等を貸し出します。(所有機器は所外貸出できるものもあります。)	
受託研究		企業等の希望によりセンターが行う研究です。	有料
共同研究		企業等の希望により、企業等とセンターが共同で行う研究です。	有料
研究員派遣		企業等の開発・研究を加速的に進めるために、研究員を一定期間派遣します。	有料
研究開発型人材育成支援		企業等の技術課題解決のために、企業等の技術者を受入れ、研究開発支援と人材育成を並行して行います。	有料
デザイン制作		企業等の希望により、デザイン制作を行います。なお、創作を伴わない場合は、デザイン加工にて対応します。	有料
人材育成		職員を講師として派遣し、企業技術者等の育成を支援します。	個別対応
知財総合支援窓口		発明協会と共同で、特許流通(技術移転等)に関わる支援・相談対応、特許電子図書館検索や特許情報活用に関する支援・相談対応、特許情報活用セミナーの開催を行っています。	無料
復興支援メニュー		震災復興支援として、有料サービスメニューの料金を減免する場合があります。 県内の製造業者が生産する製品や食品等の放射線対策(相談・測定)に対応します。	個別対応

Ⅳ 平成24年度の主な活動実績

様々な事業により沿岸被災地企業の復興を支援しました

担当:復興支援プロジェクトチーム

1 企業ニーズに即した復興支援

(1) 沿岸被災地企業のニーズ調査と企業訪問

企業訪問により沿岸被災地企業等205社のニーズを調査し、ニーズに応えるため延べ317件の支援を行いました。企業訪問は平成25年度も実施いたします。技術課題でお悩みの企業様におかれましては、是非ご利用いただければと思います。

(2) 被災地の生活改善に資する製品開発と生産支援

被災地の生活改善に寄与する道具等について被災地調査を行いながら、当センター保有技術(曲げ木製品製造技術)を活用した製品(ベビーガード、イス・テーブルセット)を開発し、県内企業での製品製造を支援しました。完成した試作品を被災地の施設に設置し、モニター調査を実施しています。

(3) セミナー及び個別相談会の開催

被災地域の企業様等の復興に向けた立ち上りを支援するため、被災地域の関係機関と連携し、被災地域4箇所(久慈市、宮古市、釜石市、大船渡市)でセミナー及び個別相談会を開催しました。セミナーの参加者は延べ107名、相談件数は19件でした。

2 デザイン開発と販路開拓による復興支援

(1) 「いわてデザインネットワーク・ボランティア」の構築とデザイン支援の実施

東日本大震災津波で被災された企業様へのデザイン面からの支援を実施するために、国立大学法人岩手大学、岩手県立産業技術短期大学校、学校法人盛岡情報ビジネス専門学校及び当センターが連携し、「いわてデザインネットワーク・ボランティア(i-DNet)」を設立(平成24年8月1日)しました。このi-DNetにデザイナーなどの皆様にも参加いただき、34件のデザイン提供を実施しました。

(2) 首都圏での販路拡大等支援

展示会「ぬくだまるいわて冬の食卓」(いわて銀河プラザ)への出展支援(9者)及び展示会「復興デザインマルシェ」(東京ミッドタウン)への出展支援(14者)を行い、当センターと共同開発した県内企業製品の販路開拓を支援しました。

3 復興支援関連研究の実施

(1) 単独研究

当センターの技術シーズを活用した復興支援に資する研究として、加工食品等を対象とする放射性物質の測定管理支援など9テーマに取り組みました。

(2) 企業との共同研究

JST(独立行政法人科学技術振興機構)復興促進プログラムなど外部資金を活用し、23テーマの復興支援関連研究に企業と共同で取り組みました。平成25年度も当該研究の推進と成果の早期事業化に取り組む予定です。



「i-Dnetによる被災地企業へのデザイン支援」

木材の新しい曲げ加工技術を活用した新商品開発

担当:企画支援部

平成24年度公募型共同研究事業

共同研究企業:有限会社藤里木工所、工房森の詩、滴生舎、安代漆工技術研究センター(順不同)

当センターが所有するコンプウッドシステムを活用した新たな木製品製造技術の開発を県内企業の皆様と共同で行いました。

県産広葉樹におけるコンプウッド処理の効果を把握するとともに、従来の曲げ木加工に比べ、常温での曲げ加工が可能で自由度も高まることを生かし、様々な試作が意欲的に行われました。

また、成果の展示(3月18日~29日、当センター)及び報告会(3月25日、当センター)も開催し、当該技術の確立と今後の展開等について議論されました。いくつかの試作品は、商品化に向け取り組む予定です。

なお、当センターの震災復興支援事業で、開発技術を被災地域の生活用品(託児施設のベビーガード等)に利用しました。



研究成果の展示風景



成果品(試作品の一例)

地域資源を活かした商品デザイン ~普代村の新商品ができました!~

担当:企画支援部、食品醸造技術部

普代村では平成21年度から村内事業者・生活研究グループと共に地域資源のブランド化に取り組んでいます。平成24年度は6事業者が主体となり、「昆布」と「鉄山染」の新商品を開発しました。

当センターでは普代村から事業を受託し、①食品開発の考え方を学ぶセミナー(5回)②デザイナー(※)を交えた商品企画会議(各事業者5回)を開催し、商品設計や試作、パッケージデザイン制作等を支援しました。2月には新商品発表会を開催し、現在は普代村のアンテナショップや盛岡市の県産品取扱店等でご購入いただけます。

※ワニーデザイン、BLANC + GRAPHIC DESIGN

【昆布入り商品】

- 上神田精肉店 「生たれカルビ」
- 下川原商店 「鼓舞焼き」(こぶやき)
- 有限会社マルコシ商店 「新巻鮭こんぶ巻」
- 株式会社マルサ嵯峨商店 「浜のお弁当おかず」
- 三船製菓店 「三船の昆布バー」

【鉄山染】

- 萩牛生活研究グループ 「鉄山染 ストール」



「生たれカルビ」
人気商品「昆布入り生たれ」
を活用した展開商品



「鼓舞焼き」
応援する気持ちをこめた
ネーミングの昆布餡入り
どらやき



「新巻鮭こんぶ巻」
うす味のこんぶ巻を開発
人気商品「いくら」とセット
のギフトに



「浜のお弁当おかず」
昆布煮と人気商品を組み
合わせてお弁当用に提案



「三船の昆布バー」
オリジナル昆布クッキーを
漁師やサラリーマンのポケ
飯用にリニューアル



「鉄山染 ストール」
鉄山の沢に湧き出る褐色
の水で草木染を媒染した
ストール

各種セミナーを随時開催しています!

担当:電子情報技術部

近年、電子・情報分野の製品開発が多様化する中、当センターに寄せられる技術相談も多岐にわたります。その中でもご要望の多い分野について無料セミナーを開催し、県内企業へ情報の提供を行っております。平成24年度は下記5回のセミナーを開催しました。

- TI MCUセミナー(9月12日)
日本TI社製マイコンの利用方法と開発環境の解説
- MATLABセミナー(11月21日)
MATLAB/Simulinkを試用した画像処理技術の説明と実習
- MCU & WLAN チップセミナー(11月28日)
WLANを搭載したマイコンの紹介と開発キットを用いた演習
- HDLコーダーセミナー(2月27日)
FPGA/ASICのモデルベースデザイン
- IEC61000規格の最新動向セミナー(3月6日)
EMC最新国際規格についての解説と導入した試験設備のデモンストレーション



セミナーの様子

今後も電子情報技術部では、ご要望を踏まえながら組込み機器開発やEMC/電気製品規格などに関するセミナーを随時企画し、県内企業の製品開発力向上につなげていきたいと考えています。

太陽電池モジュール及びソーラーLED街路灯実証試験

担当：電子情報技術部

太陽光発電はCO₂排出のないクリーンエネルギーとして一般家屋を始め、商用メガソーラシステムの設置も進んできています。しかし、積雪寒冷地における太陽電池パネルへの着雪による発電量の低下、また、海岸地域など重塩害地域における耐久性の問題も指摘されています。

本実証実験では、積雪寒冷地や重塩害地域に適した太陽光パネルとされるダブルガラス・両面受光型太陽電池パネルとLED街路灯を設置し、両面受光の発電特性とダブルガラス構造による耐久性を検討しています。なお、本研究は、矢木コーポレーション(岩手営業所(北上市))、AGC旭硝子との共同研究です。



太陽電池パネル



LED街路灯

電着塗装を利用したVOC低減化技術の開発(Ⅱ)

担当：ものづくり基盤技術第1部

平成24年度公募型共同研究事業

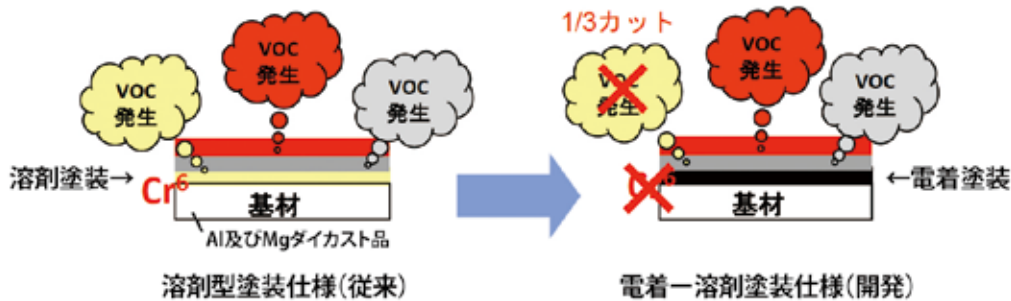
共同研究企業：東北日東工業株式会社、株式会社やまびこ盛岡事業所(順不同)

改正大気汚染防止法による揮発性有機化合物(VOC)の排出削減やPRTR制度によるクロムなどの有害重金属の排水低減化・フリー化は喫緊の課題です。

これまで、県内企業の非鉄金属塗装製品には、長期耐食性能付与を目的に前処理としてクロメート処理が行われていました。また、水性塗料を用いた電着塗装を保有する県内企業からは、稼働率の向上が求められています。

そこで本研究では、アルミニウムダイカストおよびマグネシウムダイカスト塗装製品に対するクロムフリー化、およびVOC低減化を目的とし、ノンクロム化成処理、電着塗装を用いた塗装仕様での塗膜性能について検討を行いました。

その結果、アルミニウムダイカスト塗装製品へノンクロム化成処理と下塗りに電着塗装を用いることで、クロムフリー化とVOC低減化が可能であることがわかりました。



同時5軸マシニングセンタを活用した高精度加工に関する研究

担当：ものづくり基盤技術第2部

当センターが、平成24年1月に導入した5軸マシニングセンタは、立型3軸マシニングセンタのテーブルにA軸とC軸を付加したもので、金型製作などの高精度加工に対応できる性質を持っています。ここでは、5軸CAMの習得を目的にプラスチック製ファン翼の複製に取り組みました。

その結果、5軸CAMの切削シミュレーションで予測した切削後形状と同等のファン翼形状を削り出すことができました。

今後は、5軸マシニングセンタの実用化に向けて金型及び試作品の製作へ適用する予定です。

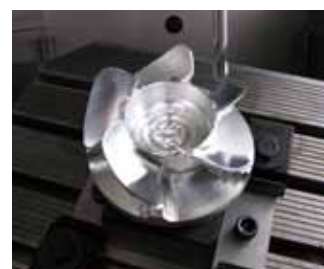
なお、5軸マシニングセンタはHSC 55 linear (DMG/MORI)、5軸CAMはTOPcam(コダマコーポレーション)です。



プラスチック製ファン翼



切削シミュレーション結果



5軸加工したファン翼

産業廃棄物を活用したリチウムイオン二次電池材料の開発

担当:ものづくり基盤技術第2部

岩手県「いわて戦略的研究開発推進事業」(H22~H24年度)及び
岩手県「産業廃棄物再資源化技術開発事業」(H23~H25年度)による受託研究

使用済み電池以外の産業廃棄物を利用した、リチウムイオン二次電池材料の研究に取り組んでいます。本研究は、岩手県内の塗装関連企業が排出する塗装スラッジ(リン酸亜鉛化成処理工程排出スラッジ)廃棄物と、岩手県内下水事業所が排出する下水汚泥焼却灰廃棄物を利用し、リチウムイオン二次電池用正極活物質(オリビン型リン酸鉄リチウム)の製造方法の開発を行っています。この取組は、県内企業が排出する産業廃棄物のリサイクル推進と県内企業の廃棄物処理費用の軽減及び地域のゼロ・エミッション環境の構築を目的としています。

現在、岩手大学工学部及び県内外企業との産学官連携研究を展開中です。その結果、前駆体材料であるリン酸鉄の合成、正極材料の試作、および小型ラミネート型電池の試作に成功しており、リサイクルの実用化と市場投入の可能性が示されています。このリチウムイオン二次電池産業は、10年後に世界規模で20兆円産業に発展するとされており、高い注目を集めています。



リン酸鉄の試作



リン酸鉄リチウムの試作



リチウムイオン二次電池用正極シートの試作



小型ラミネート型セルの試作

岩手の最上級 純米大吟醸「結の香」販売開始しました

担当:食品醸造技術部

岩手県では、平成9年から大吟醸酒用酒造好適米の育成に取り組んできました。岩手県農業研究センターでの栽培試験、および当センターでの醸造適性試験をもとに酒米選抜を行った結果、15年を経てついに「岩手の最上級」を語るにふさわしい酒造好適米『結の香』が育成されました。

『結の香』はこれまでに当センターが取り組んできた、水浸裂傷(米が吸水時に割れて、過剰に溶ける)の防止技術により、他の多くの酒米が直面するこの問題を克服した新しい酒造好適米です。これにより、雑味成分が出にくく、酒米の王様「山田錦」をも凌ぐ透明感あふれる清酒となっています。細部にまで醸造特性を突き詰めて開発された『結の香』は、極上の一滴を醸す最上級の素材です。

この『結の香』のお酒は県内6社で製造し平成25年3月に販売が開始されました。ぜひ一度ご賞味ください。



「結の香」6社統一ラベル

岩洞湖のワカサギを原料とする新しい魚醤油の開発

担当:食品醸造技術部

盛岡市玉山区藪川の岩洞湖では毎年冬になると氷上ワカサギ釣りが解禁されます。この氷上釣りには県内外から多くの釣り客が訪れますが、このような来訪者に売れる地域の特産品がとても少ないのが現状です。そこで釣り客とこだわりの調味料を求める人をターゲットとして、地域特産のワカサギを原料とする新規な旨味調味料である魚醤油を株式会社浅沼醤油店と共同開発しました(平成23年度盛岡市産学共同研究事業)。

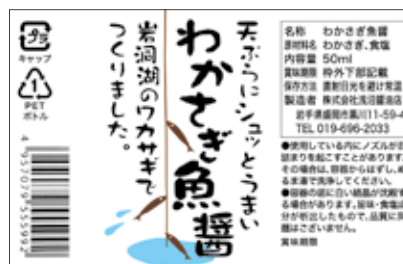
市場には「しよつる」や「鮭魚醬」など多様な魚醤油がありますが、ワカサギを原料とするものはありません。魚醤油の製造には大量に水揚げされる海の魚を原料とするものが多く、生産地は海岸部に限られていました。現在、淡水魚を原料とするのは「鮎魚醬」「岩魚のしよつる」だけであり、内陸産のワカサギで造る魚醤油は大変珍しいものです。株式会社浅沼醤油店は、この魚醤油開発で平成24年度のリエゾン-I 研究開発事業化育成資金の贈呈を受け、商品化をめざしています。



岩洞湖で釣れるワカサギ



魚醤油のもろみ



ワカサギ魚醬の商品ラベル

V 新規導入設備

電子情報技術部

電源周波数磁界イミュニティ試験器 (株式会社テクノサイエンスジャパン)

IEC61000-4-8またはEN61000-4-8に基づき、商用電源から発生する磁界による電子・電気機器の誤動作を確認する電源周波数磁界試験を行う装置です。

【仕様】 試験規格: IEC/EN 61000-4-8 試験レベル: 1A/m~100A/m
 試験周波数: 50/60Hz 磁界方向: X,Y,Z
 EUT用電源: 単相 100~230V、50/60Hz 2kVA

地域イノベーション戦略支援プログラム(次世代モビリティ) 事業による導入設備



組込・画像処理開発装置 MATLAB/Simulink, ML605 (マズワークス/イマック/Xilinx)

画像処理や組込機器のソフトウェアを試作・開発するためのシステム装置です。

【仕様】 ソフトウェア: MATLAB/Simulink, 各種ToolBox
 FPGA基板: Xilinx Virtex6 FPGA ML605
 LED照明機器: リング、フラット、ローアングル、ドーム

地域イノベーション戦略支援プログラム(次世代モビリティ) 事業による導入設備



ポータブル耐圧試験器 3173 (日置電機株式会社)

電子・電気機器や部品の絶縁・耐電圧試験を行うための試験器です。

【仕様】 耐圧試験 (AC 0~3kV/30VA)
 タイマ設定範囲: 1s~99s



多機能環境測定器 NS-M4 (日本シンテック株式会社)

温湿度、照度、騒音の計測ができる測定器です。

【仕様】 騒音: 35~130dB 照度: 0~20,000lux
 温度 K熱電対: -20~+750°C 温度 温湿度プローブ: -20~+50°C
 湿度: 25~95%RH



ものづくり基盤技術第1部

金属塗装皮膜解析評価装置 JCM-6000 (日本電子株式会社)

金属塗装皮膜の状態を簡易かつ迅速に解析する卓上型走査電子顕微鏡です。タッチパネルによるわかりやすい操作が特長で、低真空/高真空、反射電子、二次電子像による観察が可能。EDS(元素分析装置)による元素分析も可能な装置です。

【仕様】 倍率: 二次電子像×10~60,000 反射電子像×10~30,000
 最大試料寸法: 70mm径 50mm高(観察のみ) 25mm径 30mm高(分析)
 試料ステージ: X-Y手動式 X:35mm Y:35mm
 EDS搭載: 定性・定量分析、点分析、マッピング(元素分布の確認)が可能

地域イノベーション戦略支援プログラム(次世代モビリティ) 事業による導入設備



【お知らせ】

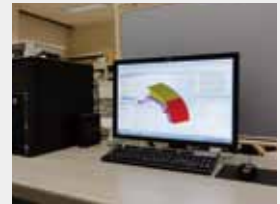
岩手県工業技術センターでは、保有する設備・機器・器具を皆様にお貸ししております。(平成25年4月1日現在、367機器)
 貸出可能な機器やお申込方法など詳細につきましては公式ホームページにてご確認いただけます。
 機器に関するお問い合わせは担当研究員までお願いいたします。

三次元公差解析ソフト CETOL 6 σ (Sigmatix社(米国))

3次元CADモデルに設定した公差情報により、アセンブリ段階でのバラツキを解析するソフトです。部品の公差を最適化する事により品質改善やコスト低減に寄与します。

- 【仕様】 パソコン:Windows7 Pro x64、CPU Intel® Xeon®3.40Ghz、RAM 16GB、HDD 1TB、外付けHDD 2TB
CADソフト:SolidWorks 2013 Premium
入力フォーマット:SolidWorksファイル、IGES、STEP等

地域イノベーション戦略支援プログラム(次世代モビリティ)事業による導入設備



ものづくり基盤技術第2部

蛍光X線分析システム

材料に含まれる元素を、X線を当てて定性分析及び定量分析する装置です。試料形態は、固体(塊状、粉状)、液体。定量分析については、標準試料が無くてもファンダメンタルパラメーター(FP)法により、組成を調べることができます。

(1) S8 TIGER (ブルカー・エイエックスエス株式会社)

- 【仕様】 <広域分析> 分析領域:直径5、18、28mm 分析可能元素:B~U
分析時間:約7分/試料(測定条件入力やデータ処理時間は含まない)
試料最大寸法:φ50×45mm X線管球:ロジウム(Rh)、4kW

(2) ORBIS (アメテック株式会社)

- 【仕様】 <微小領域分析> 分析領域:直径0.03、1、2mm 分析可能元素:Na~U
分析時間:約30~120秒/試料(試料セットやデータ処理時間は含まない)
試料最大寸法:270×270×100mm X線管球:ロジウム(Rh)、50W

企業立地促進等共用施設整備補助金による導入設備



輪郭形状測定機 DSF600S (株式会社小坂研究所)

測定物の輪郭を測定する装置です。特に、測定範囲の異なる輪郭ユニットと粗さユニットを使い分けることで58mm~7.5nmの輪郭を測定できます。また、非球面レンズの誤差評価やDXF図面との設計値照合が行えます。

【仕様】 (1) 輪郭ユニット

測定範囲:58mm(Z方向) / 測定分解能:50nm(Z方向) / 傾斜限界:昇り77°、下り87°

(2) 粗さユニット

測定範囲:5mm(Z方向) / 測定分解能:7.5nm(Z方向) / 測定力:0.75mN以下

地域イノベーション戦略支援プログラム(次世代モビリティ)事業による導入設備



X線回折装置 D8 DISCOVER (ブルカー・エイエックスエス株式会社)

X線の回折現象を利用して、固体試料中に含まれる結晶の種類や割合を調べる装置です。粉末や多結晶バルクの結晶相の分析のほか、光学アタッチメントを交換することで薄膜表面の結晶状態、鉄鋼材料の残留応力、高分子材料の微細構造などの解析が行えます。

【仕様】 高電圧発生出力:3kW

- X線管球:Cuターゲット封入型セラミックス絶縁管球 ゴニオメータ形式:縦型2軸(試料水平型)
検出器:1次元半導体検出器・試料ステージ:回転試料ステージ・9試料サンプルチェンジャ
微小部用XYZステージ・クレードルステージ・キャピラリー試料ステージ



財団法人 J K A 補助事業による導入設備



競輪・オートレースの売上金は広く社会に貢献しています。

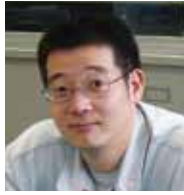
VI 職員の紹介

●学位(博士)取得

ものづくり基盤技術第2部 主査専門研究員 高川 貴仁

平成25年3月22日に、「鑄鉄溶湯からのマンガン除去技術に関する研究」と題した論文で、室蘭工業大学より博士(工学)を授与されました。

博士論文の内容は、鑄鉄溶湯からのマンガン除去処理技術の確立を目的に、硫化物系フラックス添加による硫化除去処理法や酸化鉄添加による酸化除去処理法についてまとめたものです。これらの成果が、県内企業様の製品造りや技術開発のお役に立てるよう、これからも尽力いたします。



●新採用職員(平成25年4月採用)
企画支援部 専門研究員
黒須 信吾 博士(工学)



私の専門は、金属材料の組織及び強度学で、前職では生体材料(コバルト合金)の研究に従事しておりました。私の目標は、岩手県で斬新でどこにも負けない強力な新産業を創出させることです。今後ともよろしくお願ひ致します。

定期人事異動情報

●転出(カッコ内は転出先)

総務部 部長 畑山 哲夫(企業局経営総務室)
総務部 主査 木登 恵一(商工労働観光部観光課)
企画支援部 主任主査 菊池 仁(県土整備部空港課)

●転入・採用(カッコ内は旧所属)

総務部 主幹兼部長 川村 嘉彦(水産技術センター)
総務部 主任 千田 憲彦(政策地域部調査統計課)
企画支援部 主査専門研究員 岸 敦(財団法人いわて産業振興センター)
企画支援部 専門研究員 黒須 信吾 新採用

VII 関係機関の紹介



TEL:019-634-0684

ホームページ: <http://www15.ocn.ne.jp/~hatumei/index.htm>

◆ 発明の奨励と青少年創造性開発育成、ものづくり人材育成支援を行っています。

- 優れた発明やデザインなどを生み出した技術者、研究開発者や発明の指導、奨励に尽力された方を表彰します。
- 次世代を担う青少年の豊かな想像力の育成や科学技術・ものづくりの興味・関心を引き出す少年少女発明クラブ活動を支援しています。
- ものづくりに関わる知的財産権について、学生・生徒・児童を対象に授業を行います。



岩手県発明くふう展(一般公開日)

◆ 知財総合支援窓口を開設しています。(岩手県工業技術センターといわて産業振興センターとの共同運営)

- 特許等の無料相談会を行います。
- 知財専門家による企業訪問型相談を行います。(直接弁理士等が中小企業様を訪問して相談を承ります。)
- 共同利用端末機により、どなたでもインターネット出願をすることができます。



少年少女発明クラブ交流会

※上記の詳細につきましては、岩手県発明協会までお問い合わせください。

※岩手県発明協会は、会員の皆様にご支援いただき活動しております。ご入会については随時承ります。

岩手県知財総合支援窓口

「岩手県知財総合支援窓口」は、中小企業等が知的財産をその経営に有効に活用するための相談・支援を専任のアドバイザーや弁理士等の知財専門家によって行うことを目的に設置しているもので、特許庁・東北経済産業局からの受託事業(=特許等取得活用支援事業)として行っています。

○担当 知財総合支援アドバイザー 中嶋 孝弘
佐藤 清子

岩手県知財総合支援窓口は、(地独)岩手県工業技術センター、(一社)岩手県発明協会及び(公財)いわて産業振興センターが共同で運営しています。

TEL:019-656-4114(中嶋AD) TEL/FAX:019-636-0256(佐藤AD)

ホームページ: <http://www.iwate-hatsumei.org/chizai/>

全国共通ナビダイヤル:0570-082100

(全国どこからでも最寄の知財総合支援窓口につながります。)

こんなときにご相談ください。

- 経営に知的財産を活かしたい
- 特許を出願したい
- 新商品が他社の権利を侵害しないか調べたい
- 他社の特許を使いたい
- 商標やデザインを登録したい
- 公報を閲覧したい
- 知的財産権や支援策について教えて欲しい

※ご要望があれば、貴社に出向いて相談・指導を行うことができます。(出張相談無料)



技術情報No.31 平成25年5月発行
編集/発行
地方独立行政法人 岩手県工業技術センター
企画支援部

〒020-0857
岩手県盛岡市北飯岡二丁目4番25号
TEL 019-635-1115(代) FAX 019-635-0311
ホームページ <http://www.pref.iwate.jp/~kiri/>
電子メール CD0002@pref.iwate.jp